

活動報告

activity report



8月4日 むつみひまわりロードフェスタでごあいさつ



9月8日 各地区敬老会でごあいさつ



10月26日 ハロウィンたまち&結まつりで仮装パレード



11月9日 萩市内のスーパー50周年イベントでごあいさつ



11月24日 女性防火クラブ・消防団女性団員球技大会で始球式



12月8日 萩城下町マラソンで青山学院大駅伝部のゲストランナーと

コラム



選挙に必要とされる3つの「バン」。地盤（組織）・看板（知名度）・カバン（資金）の何もない自分にとって、市内各地で行ってきた「辻立ち」は原点に立ち返る貴重な機会です。

昨年8月、この辻立ちが500回を突破しました。2022年4月1日に奈古駅前ではじめ、御許町交差点をはじめ市内各地で行ってきた辻立ち、天気がどうあれ毎日欠かさず朝晩続けてきました。

現職にならせていただき、公務の都合により、できる回数に限られますが、時間を見つけてなるべく交差点に立つようにしています。

交差点に継続して立つと、「この方最近車が変わったな」とか「子どもたちに元気がないな」とか、ちょっとした街の変化に気づくようになり、大げさですが街のリアルな空気感が感じられ、今後の活動や政策を考えるヒントにもなっています。

また、普段政治に関心がない方にも、「交差点にいつもいるささむらの政策や活動ってどんな感じなんだろう」と、少しでも興味を持ってもらえたらと思っています。

選挙の前だけ良い顔するのではなく、辻立ちが私の代名詞として、これからも続けていきたいと考えています。

ぶれない信念

ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。昨年中は皆様大変お世話になり、議員活動に全力で取り組むことができました。心より感謝申し上げます。

任期もまもなく折り返しとなります。これまで以上に「現場主義」の姿勢を徹底し、「すぐ、動く!」を心がけます。すべては萩市・阿武町のために、ぶれない信念で一生懸命頑張りますので、引き続きあたたかいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ささむら直也

山口県議会議員
ささむら直也 事務所

〒758-0025 萩市土原282-5 ヨシノビル1階
電話 **0838-21-5495**
ファックス **0838-21-5496**

ささむら直也 県政レポート vol.5

- ① 郷土愛を育む教育について
- ② 外部活力の導入による産業振興について
- ③ ワットビット連携構想による企業誘致について
- ④ 友好都市・姉妹都市の活用と国際交流、地域外交について
- ⑤ 災害への備えについて
- ⑥ 放課後子ども教室のスタッフの処遇について（要望）

※主な質問2つについて掲載します（抜粋）



郷土愛を育む教育について

「今日よりぞ幼心を打ち捨てて人と成りにし道を踏めかし」

これは私の母校であり、藩校・明倫館の系譜を引く萩市立明倫小学校の1年生が、1学期に朝の会で朗唱する吉田松陰先生の言葉だ。私が小学校の時に経験した吉田松陰先生に関する学びは、今の自分の人格や考え方を形成するに当たり、大きな影響を与えている。山口県で、そして萩市で生まれ育ったことに対する誇りを、そして、いつか故郷のために働きたいという自我を目覚めさせたのだと思っている。

山口県に生まれ育った若者が東京に憧れ、都会で暮らしたいと思う気持ちは否定されるものではないが、一定数、都会での生活に飽きを感じている人もいるはずだ。

幼少期に山口県が輩出した歴史上の偉人たちが世界、あるいは日本の中でどう位置づけられるのかといった考察を深めることを通じ、山口県に生まれ育ったことの意味を考えさせるような教育をしっかりと行うことが、山口県への愛着を深め、就職、転職、リタイアなど人生の節目にU・Iターンを検討するなどの、一つの動機づけになると考える。

山口県に生まれ育ったことの意味を考えさせるような、郷土愛を育む教育のあり方について、県教育委員会としてどのように位置づけ、取り組む必要があると考えているのか。



人口減少・少子高齢化のさらなる加速やグローバル化の進展など、社会状況が急速に変化する中、児童生徒が、山口県に生まれ育ったことを誇りに感じ、郷土への愛着を深め、将来、本県のために活躍したいという思いを育んでいくことが重要だ。

具体的には、小学校の社会科では、本県ゆかりの人物の業績等について、副読本「きょうど山口」等を活用して学習しており、例えば、金子みすゞの作品や生涯について学び、人々の心を魅了し続ける作品の背景にある、身近な自然や人の営みに対する愛情に触れることで、同郷に生まれ育ったことに対する誇りを育んでいる。

今後は、各学校において、ふるさとの人や自然、伝統、文化等に関する学習活動を教育課程に確実に位置付け、家庭や地域と連携・協働する教育活動を体系的に整理し見える化した「学校・地域連携カリキュラム」の下、小・中学校の9年間を通して、計画的・継続的に展開することとしている。

市町教育委員会や関係機関等と連携し、学校が地域と取り組むふるさと学習を充実させることにより、山口県に生まれ育ったことに対する誇りを育み、ふるさと山口の将来を担う志をもった人材の育成に努める。

災害への備えについて

今年8月、昨年4月に大地震が発生した台湾東部の花蓮県を訪問した。花蓮の地震の対応は、本県においても参考になると思われる。政府・県・市などの災害に関する情報はすべてクラウドで共有し、関係機関が普段から入力訓練や情報共有の訓練をすることにより、問い合わせや会議の手間が省け、迅速に対応することができたとのことであった。

避難所においては、慈善団体や民間団体、企業が主導し、避難者がストレスを軽減した環境で過ごせるよう、簡易に組み立てられるパーティションを各避難所にあらかじめ用意し、県や市は平時からこうした団体や企業と連携し、災害に備え検閲と訓練を繰り返していたとのことである。

本県は比較的地震による被害が少ないとされているが、南海トラフ地震は今後30年以内に70～80%の確率で発生するとされ、発生を前提とした対策を講じる必要がある。災害への脅威や備えの必要性を県民誰もが身近な問題として感じる中、県として発災時の迅速な対応に向けた行政機関の災害に関する円滑な情報共有のあり方についてどう考えているか。



災害発生時の様々な課題に臨機応変に対応するためには、行政機関の円滑な情報共有が重要であることから、県では、平素から県や市町、関係機関等との連携体制を構築し、防災訓練等を通じてその強化を図っている。

具体的には、県の総合防災情報ネットワークやクラウドを活用し、行政機関のみならず、防災関係機関も含めて、平時には各種計画やマニュアル等を、発災時には被害状況やその対応等の情報を迅速に共有しているところだ。

今後は、避難者への支援をより迅速かつ円滑に行うため、県と被災市町とが連携し、各市町の避難者情報を一元的に管理する全市町共通のシステムの導入を検討することとしており、システムの更なる活用を通じ、市町との情報連携体制を強化する。

すぐ、動く!

県道萩三隅線 路肩部・植樹柵等の防草対策

まずは現場を自分の目で見て、課題を理解した上で、できるだけ地域の皆さんの要望が実現できるよう、全力で取り組んでいます!



線路が近く、JRとの調整などにも奔走!

生活に身近な対応例

- 県道の防草対策
- 危険な道路、横断歩道、標識の修繕
- 河川の浚渫による災害対策
- やまぐちECエール便(送料無料キャンペーン)の対象拡大 など